

ラグビーワールドカップの開催で インバウンドを呼び込む



▲ラグビーは“鉄”と並ぶ釜石のシンボルだ

釜石商工会議所
所在地 岩手県釜石市只越町1-4-4
電話 0193-22-2434
HP kamaishi-cci.or.jp/

釜石商工会議所

岩手県釜石市

まちの復興には将来に 夢を持つことが必要

「近代製鉄発祥の鉄のまち」、そして「ラグビーのまち」としても知られる岩手県釜石市。今年同市で、世界3大スポーツイベントの一つ、ラグビーワールドカップ2019が行われる。同市では東日本大震災の直後から会場の誘致に乗り出し、行政や市民有志とともに活動を展開。復興に弾みをつけると同時に観光客誘致にも期待を寄せている。

2015年のラグビーワールドカップ(以下W杯)イングリランド大

会、日本が格上の南アフリカを倒し、大いに世界を沸かせたことはまだ記憶に新しい。長らく低迷していたラグビー人気復活へ、明るい兆しが見えた瞬間だった。そして今年、アジアで初開催となるラグビーW杯日本大会が、9月11月に行われる。全国12都市で開催されるその一つに、東日本大震災の被災地から唯一選ばれたのが釜石市だ。

同市は、鉄の歴史とともに歩んできた近代製鉄発祥の地である。同地で創業した日本最古の製鉄所の実業団チーム・新日鐵釜石ラグビー部が、1978年から84年にかけて日本選手権7連覇という偉業を達成したことから、「ラグビーのまち」としても知られる。一方、ピーク時には9万人を超えた人口も、産業構造の転換により減少の一途をたどる。さらに東日本大震災の津波被害が人口減少に拍車をかけ、産業も打撃を受けた。一日も早い地域の復興につなげる機会として大きな期待を寄せたのが、2019年に日本での開催が決定していたラグビーW杯だ。

「釜石の『復興まちづくり基本計画』にラグビーW杯2019の誘致を盛り込んだのは、震災が起こった年の12月です。津波被害の爪痕がまだそこかしこに残っていたし、も

ちろん賛否はありました。しかし、こんなときだからこそ将来に夢を持った方がいい。それには何か、事を起こす必要があると思いましたが」と、釜石商工会議所副会頭で釜石観光物産協会会長も務める澤田政男さんは当時を振り返る。

**官民が一丸となって
誘致活動を展開**

東日本大震災により、釜石では大小20の地区が被災した。特に、美しい海の景観が自慢の鶴住居地区は津波にのまれ、大きなダメージを受けた。震災から8年を迎えた今、復興事業のハード面の多くは終了を迎えつつある。土地区画整備事業や防災集団移転促進事業などにより、土地のかさ上げ、高台への移転などがほぼ完了。最後の復興公営住宅も完成し、入居を開始している。市民ホールや魚河岸にぎわい創出施設もでき、鶴住居地区には震災の伝承施設や観光施設も完成する予定だ。

その過程で商工会議所は、地元商工業者の仮設営業から本設営業への移行をバックアップしてきた。小規模事業者持続化補助金の活用を促して、商品改良やコンセプトの見直し、ターゲットの設定など個店の魅力の強化や他店との

特集

観光客誘致へ 新たな東北を 売り出せ!

2011年3月11日に起きた東日本大震災から早くも8年が過ぎた。しかし、被災地・東北各地の完全復興への道のりはまだ遠い。そこで、インバウンド、スポーツイベント、官民観光連携など完全復興へ向けて新たな観光客の誘致に乗り出した東北各地の取り組みを追った。

